



## 県議会報告（上）

「翁長知事のダブルスタンダードはまさに離島軽視」

沖縄県議会議員

砂川 利勝

翁長知事の辺野古問題と尖閣諸島問題の対応のまずさはまさに『離島軽視』と言わざるを得ない。この問題に関して翁長知事は一言も発言せず、ダンマリを決め込むなど、自らの矛盾を指摘され、答弁できない状況に追い込まれた。そう思うのは私だけではないはずだ。

2期目の県議会選挙を終えて、開かれた6月定例議会で野党自民党会派の代表質問に立った私は、中国による尖閣諸島への領海侵犯など不法行為や軍艦による挑発行為がエスカレートしていることに対して強く抗議すべきとして知事の政治姿勢を質した。

このことは、辺野古問題に関して知事は国やアメリカ政府に対して強い態度で抗議していることから、日本国の領土であり沖縄県石垣市の行政区域である尖閣諸島に対して領海侵犯だけではなく軍艦による挑発行為がエスカレートしている現状に抗議するのは知事としての政治姿勢を問われる当然の成り行きであると考えられる。

辺野古問題に関して国防は国の専権事項であり外交問題であるにも関わらず、住民自決権や沖縄の問題だとして国と対峙し、アメリカ政府に対しては直接米国に乗り込み抗議するなど、オール沖縄を標榜し大いに発言を振るっているのはご承知の通り。

一方では、中国の海警による尖閣諸島への連日の領海侵犯のみならず、海軍や空軍による領海・領空侵犯が相次ぐなか、危機的状況に追い込まれている現状に対しては、未だに何ら行動を起こそうとしない翁長知事。

領土の警備や中国との外交問題は国の専権事項であり、県は一切関係ないと言わんばかりであり、辺野古問題と尖閣諸島問題に対する対応は、まさにダブルスタンダードと言わざるを得ない。

このことを問われ、翁長知事は自らの失態に気が付いたのか、それとも、同じ問題に関して異なる指針を示す事が不公平であり、二重規範が錯誤であるのか感情であるのかは知る由はない、が、翁長知事はダンマリを決め込んだ。

してはいけない二重規範の矛盾を指摘され、自らの答弁を避けた事は知事としての資質を問われている。このことを受けて、その後の一般質問でも自民党会派の同僚議員からも翁長知事の政治姿勢が厳しく問われた。

この問題に関して翁長知事は何ら答弁していない、県としては尖閣諸島問題に「日本政府の見解を支持している」「県は重大な関心を持って注視している」と、県の考えを答弁しただけだ。

国の専権事項である辺野古問題に関しては口を挟むどころか、反対運動の先頭に立ってオール沖縄を標榜している翁長知事であるならば、尖閣諸島問題に関してもオール沖縄の立場で国や中国に関して口をはさみ、抗議すべきだと思うのは私だけではないはずだ。

アメリカ政府に対しては渡米してまだ抗議し、辺野古問題はオール沖縄の意思表示だと声を大にしておきながら、尖閣諸島問題に関しては口を閉ざし、中国の海警や軍艦が領海侵犯し、中国の領土だと主張していることに関しては口を閉ざす。

裏を返せば、尖閣諸島は中国の領土だと自ら宣言しているようなもので、中国の領海侵犯や海軍の挑発行為に関しても「何ら問題はない」との政治姿勢と受け止めざるを得ない。

翁長知事の政治姿勢がダブルスタンダードとしても、尖閣諸島問題は日常的に海警が領海侵犯を繰り返し、海軍や空軍が我が物顔で往来する現状はエスカレートするばかりである。

尖閣諸島周辺海域で漁を営む八重山・宮古島地域の漁民の安全・安心は確保されない。この実態にオール沖縄を標榜する翁長知事は何とも思っていない事が、今回の対応ではっきりした。

辺野古問題はまさに外交問題である事は論を待たない。その事に関しては沖縄の民意は反対としてアメリカ政府に抗議するのであれば、「日本国の領土であり沖縄県石垣市の行政区域」である。

尖閣諸島問題に対して国の見解を支持している沖縄県は、毅然とした態度で中国に対して抗議すべき。沖縄県民を守るためにも知事のあるべき姿である。

中国に対して『抗議しない』翁長知事に対しては様々な指摘がなされているのはご承知の通りであるが、ダブルスタンダードの政治姿勢は厳しく問われるものである。

いずれにしても、翁長知事の二重規範による独断と偏見で、離島軽視の政治姿勢は許されるものではない。

海警や軍艦が我が物顔で領海侵犯を繰り返し、安全・安心が確保されていない尖閣諸島周辺海域。

危機迫る尖閣諸島問題で翁長知事は中国に対して「沖縄県石垣市の行政区域であり、領海侵犯するな」と強い態度で抗議して欲しい。

県議会代表質問の最後の言葉を敢えて述べさせて頂く。

「漁業者は漁にいけないんだ！。何もアクションを起こさないのはどういう

ことか！。翁長知事の対応のまずさは離島軽視と言わざるを得ない！」

日本政府やアメリカ政府に対して「沖縄軽視だ」と声高に叫ぶ翁長知事は自ら離島軽視するようなことはしてはならない。翁長知事は離島住民の声を真摯に受け止めて欲しいと願うのは私だけではないと確信している。

#### 県議会報告（下）

「更なる離島軽視が浮き彫りに」

沖縄県議会議員

砂川 利勝

県議会 6 月定例会代表質問では尖閣諸島問題の他、知事の政治姿勢について 6 項目、沖縄振興策について 6 項目、離島・過疎地域の振興について 6 項目、県内産業の振興について 7 項目、農林水産業の振興について 8 項目、教育・文化・スポーツの振興について 6 項目、県警関係について 6 項目について質した。

尖閣諸島問題について翁長知事は一言も発言しなかったが、尖閣諸島問題に関して何ら行動していない事を指摘され県当局は「外交は基本的に国の専権事項だ。我々はしっかり平和的な手段で対応したい」と述べるに止めた。

中国軍艦の接続水域侵入に対して県当局は「日本政府は中国大使に抗議している。外務事務次官からも重大な懸念を表明している。県は政府の対応を評価しており、重大な関心を持って情報収集に当たりたい」と述べ、他人事のような答弁に終始した。

尖閣問題で市議会の要請に県は「石垣市長と宮古島市長の要請には副知事が対応したので、市議会には知事公室統括官が対応した」と説明したが、対応のまずさを指摘され、更なる離島軽視を浮き彫りにした。

自衛隊の石垣島配備について県当局は「地元の理解と協力を得られるよう政府は丁重に説明し、住民の安心安全に十分配慮すべきだ」との見解を示した。

日台漁業取り決めに係る漁業者の安全操業の確保について県当局は「操業ルールの確立、違法操業取り締まりなどについて関係団体と連携し、引き続き国に求めていく」と答弁。

新県立八重山病院建設の予算の確保について県当局は、追加の磁気探査や労働者確保の費用などを「新たな費用確保に努めて建設を推進している」と述べた。

全国平均より大幅に低い県民所得について県当局は、第三次産業が多い産業

構造に要因があるとしたうえで「観光客数も過去最高を更新し、失業率も大幅に改善している。各種経済指数も好調に推移。今後の県民所得に反映される」との考えを示した。

県民を『先住民族』とする国連の勧告を県が追従し、批判されていることに「県は意見を述べる立場にない」としたうえで、「沖縄の自己決定権が十分に尊重されず、基地問題が解消されない状況こそが問題だ」と反論した。

今議会は、二期目当選後の冒頭で自民党会派による代表質問で、一問一答形式ではなかったために、翁長県政の政治スタンスを厳しく追及する事は出来なかったのが悔やまれる。

政治家のダブルスタンダードは許されるべきではない。辺野古問題と尖閣諸島問題は同じ沖縄の問題であり、同じ規範で対応すべきである事を今後とも質していきたい。

日本政府やアメリカ政府を軽視し、更には離島を軽視していることが浮き彫りとなった翁長県政。ダブルスタンダードを糾弾し、離島重視政策を勝ち取っていきたい。

今後とも離島住民の切実な声を県当局に訴え、予算に反映させ、離島振興策を推進させていきたいと強く願っている。

改めて八重山選出の議員として、今後とも離島住民の声をしっかりと届けるため、『有言実行』をモットーとして邁進することを表明し、ここに議会報告とさせていただきます。